

TEN YEARS AGO (113)

---- CMO #153 (10 Jan 1995) pp1523-1538 & CMO #154 (25 Jan 1995) pp1539-1554 ----

1995 年一月には二號出ている。10 日號の CMO#153 では 1994/5 年接近(11Feb1995 最接近)を 1980 年、1963 年の小接近と比較している。1995 年には $\lambda = 058^\circ \text{Ls}$ で最接近だが、1980 年には $\lambda = 071^\circ \text{Ls}$ で、1963 年には $\lambda = 046^\circ \text{Ls}$ 等の違いのあることなどが述べられている。

LtE は正月だから満載編集。「夜毎餘言」は「好日好天」で張教授の東尋坊・永平寺訪問の話。あれからもう十年ツカ。

Report は十二月後半($\lambda = 032^\circ \text{Ls} \sim 039^\circ \text{Ls}$)で、「予想以上に好成績」とある。Mo 氏が TP で大活躍、眼視も Iw, Mk, Hk 氏など好く観測が揃っている。エリュシウム、プロポンティス I からタルシス、年末にはクリュセ邊りの精査が出来ている。前號紹介の合同観測は九名の参加で成功した。電話も飛び交ったようである。未だ衝前で開始が遅いが、Iw 氏などの朝まで八枚聯續が見える。特に 2Jan は福井も含めて天気が良く、全體で $\omega = 330^\circ \text{W} \sim 090^\circ \text{W}$ まで密に観測されている。沖縄の Id 氏も六回、Mk 氏も七回を数えている。この日は福井からカノープスが見えた。

第二回合同観測が最接近日を挟んで二月 10、11、12 日に設定された。

25 日號の CMO#154 では、トップから Report で一月前半($\lambda = 039^\circ \text{Ls} \sim 046^\circ \text{Ls}$)の観測を扱っている。筆者は半月で 38 だが、Mk 氏は 33 と迫っている。この Fortnight Report だけで十三頁という内容である。合同観測の纏めも含むが、時を同じくして ccd の DPK 氏が三日連続で観測し八セットほど送られて来ている。十時間ほど早いのでシュルティス・マイヨル方面である。一方、ヨーロッパは正月は天候不順だったようである。Mo 氏は未だ TP だが、6Jan には三色分解でクリュセからテムペに掛けての朝霧などを描寫して心境著しい。7Jan には福井で筆者が十二枚連続で観測した。マレ・アキダリウムの邊りには愈々様々な現象が顕れている。尚、18Jan の朝、Id 氏から北極冠の内部に暗線が見える($\omega = 260^\circ \text{W} \sim 270^\circ \text{W}$)との FAX 報告があった(LtE)。早速電話や速達で速報した(未だ email がない)が、追加観測はなかった。しかし、 $\lambda = 050^\circ \text{Ls}$ 邊りでも既に可能ということであるから次回には忘れないようにしなければならない。

17 日の早朝、神戸で大地震が発生した。筆者は天津で観測を終えて床に入ってからグラッと来て書棚から本が飛び出るのに出逢ったが、沖縄では未だ観測中の時刻であったようだ。ESg さんから直ぐ見舞い状が来た。永井氏は朝日福井支局から神戸に転勤されていて、中央区で被災した。佳く無事だったが、人を救うのは人しかいない街を取材。その後東京本社勤務を経て、現在は大阪本社である。

南 政次 (Mn)